

春日井市の概要



春日井市は、日本のほぼ中央部にあたり、市の東南部は、庄内川を境に瀬戸市、名古屋市に接し、西部から北部にかけては、西春日井郡豊山町、小牧市、岐阜県多治見市にそれぞれ接しています。地形的には、東西に長く16キロメートル、南北に13・5キロメートル、尾張丘陵と濃尾平野の接するところにあります。

昭和18年6月1日、勝川、鳥居松、篠木、鷹来の4町村を合併、市制施行当初は、面積47・91平方キロメートル、また昭和33年1月1日に、旧高蔵寺町23・86平方キロメートル、旧坂下町21・26平方キロメートルを併せ、市の面積は93・03平方キロメートル(平成2年10月1日国土地理院により面積訂正92・71平方キロメートル)となっています。

気候は、中部山岳の影響を受け、市の東北部は山地・丘陵地であるため、西南部の平地に比べて降水量も多くなっています。全般に、四季を通じて比較的变化の少ない恵まれた地域です。

年間平均降雨量は約1500ミリメートルで、愛知県下の各地と比較してみると雨量の少ない地域にはいりません。しかし、高蔵寺町から坂下町にかけての山間丘陵地では、暖候期に地形性降雨があるため、雨量は平地よりも

若干多くなっています。

分野別の統計データの現況は、次のとおりです。人口・世帯数は、いずれも増加傾向にあるものの、伸びは鈍化しており、1世帯あたり人員は減少傾向にあり、国勢調査によれば、平成17年10月1日時点の人口は29万5802人、世帯数は11万596世帯となっています。人口動態をみると、自然動態・社会動態ともに増加を続けていますが、増加数は減少傾向にあります。

土地利用の状況では、平成16年においては、市域の22・5%が住宅地であり、森林が17・5%で2番目に大きな割合を占め、以下、工業用地等が13・5%、道路用地が13・1%と続いています。近年では、田・畑や森林の面積は年々減少し、住宅地や工業用地等が増加してきています。市街化区域は、4569ヘクタールであり、市域全体の49・3%を占めています。

都市基盤整備における平成17年4月1日現在の道路改良の進捗率は84・3%、都市計画道路の進捗率は77・5%となっています。また、平成18年3月31日現在の市民1人当たりの都市公園面積は11・3平方メートルであり、県や全国の水準を上回り、土地区画整理事業は、施行中も含め49地区で実施され、総面積は3426ヘクタールであり、公共下水道の普及

率も62・8%となっています。

交通では、JR中央本線、名鉄小牧線等が市内を通り、JR中央本線には、春日井駅始め5つの駅があり、その内、高蔵寺駅の利用者が最も多く、また、名鉄小牧線では味美駅始め4つの駅すべての乗車人数が増加しています。バス交通では、JR東海、名鉄およびかすがいシティバスが運行されています。また、道路交通網では、東名高速道路や、東名阪自動車道、中央自動車道のほか、国道19号、155号、302号などの幹線道路が市域を通るなど充実した交通網を有しています。

産業構造では、近年、従業者数は全体として増加が続いており、第1次産業、第2次産業は減少しているものの、第3次産業は増加傾向にあります。特産品としてはサボテンが有名で、苗生産は、全国の80%を占めています。

文化面では、平成18年4月現在、密蔵院多宝塔を始めとする4件が国の文化財に指定されており、その他史跡や建造物、祭り・芸能など84件が市・県の文化財として指定されています。また、平安時代の三跡の一人、小野道風生誕の地と伝えられる松河戸町に、書の美術館である道風記念館を整備し、道風展の開催などを通じ、「書のまち春日井」の発信・浸透に努めています。